

平成30年度学校評価

平成31年3月20日

北海道紋別養護学校長 仲 谷 智

1 本年度の重点目標

目的と根拠を明確にし、「効果的・効率的」な指導及び校務を行うことにより、学校力を向上させる。

(1) 指導の重点

目的と根拠を明確にし、ねらいに迫る教育活動の展開
指導目標の達成のため、適切な教材と教育活動を設定し、確実に力を身に付ける授業の改善充実
児童生徒一人一人の課題に応じた指導や環境の工夫
児童生徒の自主性を引き出し、自立と自律の基礎を培う指導の工夫

(2) 経営の重点

目的と根拠を明確にし、効果的・効率的な校務の推進
情報・方針を共有し、効果的・効率的に推進するチーム力の向上
教育公務員としての自覚と社会規範の意識化による服務規律の遵守

2 平成30年度学校評価分析結果と改善の方策

項目・方策	職員評価	保護者評価	関係者評価
○学校経営 ・教育支援計画・個別の指導計画	・全項目の平均値は教職員 3.2 であった。個別の指導計画の説明に関して年間3回(5月10月2月)の懇談を設定していること、見やすさ・聞きやすさ・わかりやすさを職員が意識していることで評価が高くなった。 ・教育支援計画の長期目標や短期目標の話はしても支援計画の活用については触れられていない。	・全項目の平均値は 3.4 で全体を通して保護者は「よくできた」と回答していただいたが、何名かの方が、子どもの実態把握、ニーズ、情報共有が「あまりできていない・できていない」と感じている項目がある。 ・教育支援計画の活用法について保護者にメリットを伝えきれていない。	・真ん中がなく4段階の評価基準で評価していて、3.4 という結果はすぐれた経営を實踐されているということである。 ・子どもの実態把握は子どもを知ることから始まる。一番大切なのは接している先生の観察で、日々記録を累積することで主観から客観になる。記録を記憶していくことも必要。見る視点をしぼり、実態把握をしっかり行っていく。
改善の方策	・子どもの実態把握(観察、面接、検査)をしっかりと行い、学舎・保護者で共通理解していく必要がある。また、個別の指導計画を一人で作成するのではなく、関わるメンバーで作成し、指導計画を元に、題材について話し合いを行い授業を改善していく。 ・学校の中でも支援計画の扱いの理解や浸透が不十分なことから、早急に関係機関との連携のツールとしてどのように使用するのが指針を出し、保護者と連携をしていく。		
○教育活動 ・学級経営 ・授業	・人権を大切にしたい指導では、学校評議員会でいただいた意見を元に、各学部で話し合いの機会を持った。	・何名かの保護者の方から、人権を大切にしたい指導に関して意見をいただいている。	・評議員会の話を受けて職員間で話し合い行ったようで、いろいろな部分を修正してこうとしている感じが感じられる。
改善の方策	・人権を大切にしたい指導では、職員相互の牽制、児童生徒の見本となる行動や言葉遣い、呼称に関する課題、生活年齢や人権に配慮した取組を徹底する。		
○学校・寄宿舎、保護者との連携	・学校、寄宿舎で子どもについての情報共有が不足していることがあった。 ・進路情報を保護者に分かりやすく説明しているの評価が低かった。	・項目23については、評価点が低くなっている。職員から保護者への報告連絡相談、職員同士の報告連絡相談の二つの課題が見られる。	・進路指導は出口に目が行きがちになるが、小学校1年生から始まる。進路指導の改善・充実を図って欲しい。学校は手厚いが、福祉は人手不足である。支援の手を減らしていくなど今後卒業後を見据えた支援をお願いしたい。
改善の方策	・子どもに対する目標や指導の手立てなどの情報共有、職員間で共通理解を図ることが必要である。保護者に対して説明することの評価は高いが、一緒に考えていく、保護者の話を受容して聞くことを行っていく。児童生徒だけではなく保護者や職員に対しても、相手の立場を尊重し丁寧な態度で対応し伝えるだけでなく、共感的に聞く、方針に基づいて前向きに話し合っていく。		
○その他	・服務規律に関しては職員はよくできた(74%)と認めていても保護者(45%)との意識のずれが見られる。教員に対する社会の目は厳しくなっているので、勤務時間のみならず、教育公務員である意識を忘れない。 ・限られた機会の中でニーズに沿ったPTA活動が推進できるよう、徐々に無理なく保護者主体になるよう計画していく。 ・個人情報に関してはチェック体制を整備し、職員一人一人が意識を高めて漏えいのないように取り組んでいく。 ・泊を伴う学習だけでなく校外学習や日常の学習でも様々なことを想定して計画していく必要がある。 ・学校の教育活動を知ってもらうため、地域の参観日、学校便り、HPでは児童生徒の学習の様子を毎月更新したり、報道関係者を利用し発信したりしているが、十分でないと感じている方がいることから、今後もさらなる工夫が必要である。		

平成30年度 紋別養護学校 学校評価 集計結果(教職員、保護者)

※事務部は、17～24をメインの回答

教職員 全体平均値 3. 2 保護者 全体平均値 3. 4

評 価 項 目			教職員	平均値	評価4	評価3	評価2	評価1	
			保護者		よくできた	できた	あまりできていない	できていない	
児童生徒について	1	児童生徒の実態を的確に把握し、児童生徒の状態に応じた個別の指導計画の目標を設定している。	教職員	3.2	22%	71%	6%	0%	0%
			保護者	3.5	66%	21%	10%	3%	0%
	2	専門的な知識のもと、児童生徒のニーズ(個別の指導計画)に沿った授業(指導)を行っている。	教職員	3.0	14%	69%	16%	0%	0%
			保護者	3.4	55%	31%	7%	3%	4%
	3	個別の指導計画の目標と手立てや評価を保護者に説明し、同意を得ている。	教職員	3.5	55%	39%	6%	0%	0%
			保護者	3.7	66%	31%	0%	0%	3%
	4	いじめの早期発見、体制整備をおこなっている。	教職員	3.5	51%	47%	2%	0%	0%
			保護者	3.6	52%	24%	0%	3%	21%
	5	児童生徒の人権を尊重した校内の適切な言語環境ができている。	教職員	3.3	18%	63%	16%	2%	0%
			保護者	3.6	69%	21%	3%	3%	4%
	6	教室掲示や廊下等の掲示が児童生徒にとってわかりやすくなっている。	教職員	3.3	35%	61%	2%	0%	0%
			保護者	3.5	48%	45%	3%	0%	4%
	7	児童生徒のことについて、学校(寄宿舍)と保護者との間で情報を共有して、指導に当たっている。	教職員	3.2	31%	57%	10%	2%	0%
			保護者	3.4	52%	28%	7%	3%	10%
	8	子どもたちの気持ちや主体性を大切にし、児童生徒に意欲を育てる指導を行っている。	教職員	3.2	29%	63%	6%	2%	0%
			保護者	3.4	59%	28%	10%	3%	0%
職員について	9	研究・研修や情報収集に努め、指導改善を行っている。	教職員	3.2	29%	65%	6%	0%	0%
			保護者	3.5	59%	28%	3%	3%	7%
	10	目標や手立ての評価が適切に行われ、指導計画や授業改善につながっている。	教職員	3.2	27%	67%	6%	0%	0%
			保護者	3.6	55%	35%	3%	0%	7%
	11	授業時数、時間割は児童生徒の実態に応じたものになっている。	教職員	3.3	33%	67%	0%	0%	0%
			保護者	3.5	41%	48%	0%	0%	11%
	12	領域、教科など指導形態の設定は児童生徒の実態に応じたものになっている。	教職員	3.2	25%	71%	4%	0%	0%
			保護者	3.4	48%	38%	10%	0%	4%
保護者	13	保護者と連携して「個別の教育支援計画」を作成し、児童生徒の課題や目標、手立ての設定や関係機関との連携において活用している。	教職員	3.2	37%	45%	18%	0%	0%
			保護者	3.5	52%	45%	3%	0%	0%
	14	進学や福祉制度・サービスなどの進路情報を得て、保護者に分かりやすく説明している。	教職員	3.1	22%	61%	16%	0%	0%
			保護者	3.3	41%	55%	0%	3%	0%
地域、関係機関	15	対等な立場での交流及び共同学習の推進を行っている。	教職員	3.2	27%	67%	6%	0%	0%
			保護者	3.3	52%	35%	7%	3%	3%
	16	児童生徒をとりまく関係機関とは個別の教育支援計画で得た情報で、役割分担と協力体制の推進を行っている。	教職員	3.1	20%	65%	14%	0%	0%
			保護者	3.2	35%	45%	10%	3%	7%
	17	学校の教育活動について地域へわかりやすく発信し、十分に理解啓発を行っている。	教職員	3.3	34%	62%	2%	0%	0%
			保護者	3.1	38%	52%	3%	7%	0%
危機管理	18	児童生徒の個人情報の管理を適切に行っている。	教職員	3.4	51%	40%	8%	0%	0%
			保護者	3.4	52%	35%	14%	0%	0%
	19	マニュアルに基づいた、緊急時に迅速及び適切な対応をしている。	教職員	3.1	26%	64%	8%	0%	0%
			保護者	3.4	55%	31%	14%	0%	0%
その他	20	保護者主体のPTA活動の理解啓発の推進をしている。	教職員	3.0	17%	70%	9%	2%	0%
			保護者	3.6	41%	41%	7%	3%	8%
	21	学校予算は、教育活動の必要性、緊急性、優先度に基づいて計画的に執行されている。	教職員	3.3	38%	59%	0%	2%	0%
			保護者	3.3	52%	41%	0%	0%	7%
	22	学習費や行事費は適切に使い、用途などを十分に説明することができている。(寄宿舍は小遣いや日常生活費とする)	教職員	3.7	77%	21%	0%	0%	0%
			保護者	3.7	66%	35%	0%	0%	0%
	23	報告・連絡・相談を徹底し、相手の立場を理解した発信・受容の推進を行っている。	教職員	3.2	36%	53%	9%	0%	0%
			保護者	3.1	41%	45%	7%	7%	0%
	24	服務規律を遵守し、公務員としての自覚と誇りを持った行動をしている。	教職員	3.6	68%	30%	0%	0%	0%
			保護者	3.5	45%	38%	3%	0%	14%